



とべだより

平成30年4月27日

5月号

横浜市立戸部小学校

子どもの安心感をつくる 地域の力

学校長 柳澤 潤



まちの木々が、一斉に新緑の芽を吹いています。先日、戸部小の周りでツバメの飛来を目撃しました。ゴールデンウィークを前にして、夏の近い気配があります。

新学期から一か月、全てが新しい環境の中で、新しい仲間とともに、学校生活がスタートしました。とりわけ1年生にとっては、一人で登校して校舎に入ることも、今までにない大きな環境の変化です。昇降口が近づくと、涙があふれ出て、歩けなくなってしまおう。こんなことも、ときどきある出来事の一つです。それでも、周りの大人や子どもたちに声をかけられ、再び歩き出します。一つ一つ乗り越えて元気になる姿に、周りの大人たちが笑顔になります。本人にとっては、じっと見守ってくれていること、一言声をかけられること、これが大きな励ましになっています。どの学年の子どもたちにも、この一か月間は、それぞれに乗り越えることがあったに違いありません。「よくがんばっているね」と、一人ひとりに伝えたい気持ちになります。

戸部小のよいところは、朝のスタートが早いことです。月曜の朝会も予定された時間より、いつも数分早く始めることができます。しかも、どの子も落ち着いて、しっかりと話を聞くことができます。朝の学習にも、すぐスイッチが入ります。この戸部小のスタイルを支えているのが、家を出てから学校までの大人の関わりだと思えます。

登校班で学校に集う子どもたちは、まず、集合場所で自分の地区の保護者の方に出会います。ここでは、全員をわが子のように迎えてくれる保護者がいます。ちょっとしたゆとりの時間が子どもたちの落ち着きをつくります。そして、横断歩道など、通学路のポイントになるところでは、まもり隊や防犯パトロールの皆様が待っていてくれて、心地よい挨拶が交わされます。班の前後は、高学年のお兄さんお姉さんが低学年を挟むように歩き、6年生が1年生と手をつないで歩く様子も見られます。学校の門まで、旗当番の保護者の方が付き添ってくださり、「行ってらっしゃい」と手を振ってくれます。これが毎日繰り返されています。

集合場所に大人がいる安心感、一緒に歩いてくれる安心感、いつも見守ってくれているという安心感、この安心感が戸部小の子どもたちの生活を支えています。

「一人の子どもを育てるには、一つの村が必要」との外国のことわざがあります。子ども一人が健全に育つためには、その子を取り巻く地域の教育力が必要です。戸部のまちには、一人の子どもを育てる地域の力があります。心配な子どもを見かけた地域の方が、門に立っている先生に駆け寄ってきて、その様子を詳しく知らせてくれることもあります。毎日繰り返される登校での大人のかかわりは、戸部小学校を支える文化であり、力です。地域、保護者の皆様、雨の日も風の日も、ありがとうございます。

5月は、全校遠足から始まります。縦割り活動で、他学年との交流もぐっと深まってきます。今月もどうぞ、よろしくお祈りします。